

(様式)

# 令和4年度 学校評価 学校関係者評価書

学校園名	三木市立自由が丘幼稚園
------	-------------

## 1 学校教育目標

遊びながら学び育ち合う子ども達の育成

(1)明るい子 (2)やさしく心豊かな子 (3)気づき、考える子 (4)根気強い子

## 2 本年度の重点目標

- (1) 心身の調和のとれた発達を促す多様な実体験が得られるように工夫し、感じる心を育てる。
- (2) 地域、小学校などとのつながりを深めながら、連続した育ちが保障されるように努める。
- (3) 積極的な情報の発信を行い、保護者や地域の方の理解を得ながらより教育力を高めていく。

## 3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
教育課程・指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の内面を読み取り、支援の方向性を探る。(研修会、職員会での日々の話し合いや個人支援案の作成など)</li> <li>○子ども自らが主体的に生活できるための教育内容について探る。</li> <li>○基本的生活習慣の育成を図る。</li> <li>○給食や栽培活動を通じた食育の推進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の内面が読み取れるように、個人支援案を作成し、日々職員間でカンファレンスを行い支援の方向性を定め保育にのぞんだ。</li> <li>○園内研修会(講師を招聘)を定期的に行い、主体的な子どもを育てるための保育の内容・支援について研修を重ねた。</li> <li>○基本的生活習慣については、個々の発達に応じ、家庭との連携を密にしながら行った。</li> <li>○食育の推進については、畑の引越しプロジェクトを行い、子どもたちが育てたいと思った野菜や果物を育て、カレーライス、餃子ピザなどクッキングを行い、食への関心や意欲が高まった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人支援案のカンファレンスを継続する。</li> <li>○主体的な子どもを育てるためには、まず職員が主体的に行動することが大切であると考えている。今まで以上に保育を創造する喜びが味わえるように研鑽を積んでいく。</li> <li>○食育については、個々の発達段階や家庭の状況などが大きく左右されるため、小さなステップで進んでいけるようにする。</li> </ul>
道徳・人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な自然や小虫、動植物にふれながら、心を動かし、命を大切に育てる心育成を図る。</li> <li>○様々な体験活動や様々な人とのかかわりを通して、他者の存在や思いに気づきながら、人とかかわる力や規範意識の芽生えを培う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ウサギの世話を毎日行い、動物の気持ちや変化に敏感に気づき思いやりの気持ちが育った。</li> <li>○畑に集まる虫たちを捕まえ大切に飼育する中で命あることを実感した。</li> <li>○多くの草花や自然に触れる環境を整えることで、自然の不思議や美しさに目をとめる子がふえた。</li> <li>○鉢栽培では、自分の子どものように植物を大切に育てる姿が多く見られた。</li> <li>○年長年少などとの交流を意図的に組み合わせることで、日頃見られない姿が見られ、相手の気持ちにも気づき自信がついた子どもが多く見られた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍のために十分体験できなかったこと、人とのかかわりなどを、今後も大切に育て保育を重ねる。</li> <li>○職員も経験や体験を重ねながら、子どもと共に感じたり感動したりする気持ちを忘れないようにする。</li> <li>○子どもの人権感覚を育てるためには、職員がまず人権感覚を絶えず磨くように研修を続ける。</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の個性を子ども同士が認め合い、育ち合える仲間関係の育成を図る。</li> <li>○専門機関と繋がりをしながら研修を重ね、発達段階を踏まえた的確な支援の方向性を見極める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども同士が互いを認め合える保育内容の工夫について職員間で日々カンファレンスを行った。</li> <li>○月1回、講師を招聘して園内研修会(公開保育)を行い、保育の実際に応じた支援のあり方について話し合い、方向性を定めた。</li> <li>○自由が丘小学校、自由が丘東小学校の先生や発達支援施設などと何度も連携をもちながら、支援の必要な子どもについての引継ぎや指導の在り方の共有を行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後も個人支援案、個別指導計画の作成などに取り組み、個々の特性や個性を踏まえた的確な支援が適宜行えるように研修を積む。</li> <li>○小学校との連携において、引継ぎは丁寧に行っているがより日常的な連携を大切にしていけるように計画を進める。</li> </ul>
家庭・地域 小学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園生活や園が大切にしていること、子どもの育ちなどを、様々な方法で発信し、家庭との連携を密にしながら、共に子どもを育てていく。</li> <li>○地域との身近な繋がりを大切にしながら、地域で安心して育っていけるような心の素地をつくる。</li> <li>○特に1年生との連携を深めることができるように、交流の在り方について工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホームページや日々のお迎え時のスピーチ、クラスだより、園だより、掲示板でのドキュメンテーションなど、タイムリーに保護者に園での様子や情報を発信した。そのことから保護者と園のつながりが深くなり、共に子育てをする姿勢が強くなった。</li> <li>○役員の方が主体的に行動して下さったおかげで様々な活動ができた。</li> <li>○わくわくステーション、公民館、のびのび自由っ子、自由が丘小学校、自由が丘東小学校、店舗などに出かけ、保育内容とうまくリンクさせながら、交流をもつことができた。</li> <li>○自由が丘小学校1年生と年間を通して毎月1回交流することで、互いの良さを認め合うことができた。小学校の先生に、自己紹介カードを作成し手渡し、自分のことを知ってもらえるようにした。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後も様々な方法で、発信していく。</li> <li>○保護者の方には、現在行っている活動がどのような学びに結びついているかなど、より具体的に伝えるように努力する。</li> <li>○今年度は少しずつ様々な方面で道をひらいていったので、今後も地域の中で育つ子どもたちを育てるために、連携の在り方を工夫していく。</li> </ul>
健康・安全教育 防災教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルス対策の3密を避けるような環境を整えたり、指導したりする。</li> <li>○避難訓練を定期的に行い、まず職員間の意識を高め、命を大切にすることについて子どもや保護者と共有する。</li> <li>○市教委と連携した危険個所等の施設管理体制の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルス感染症対策を引き続き行いながら、正しく恐れることを基本としながら、子どもにとって大切なことはできるように、通常の生活へと戻れるように努力した。</li> <li>○月1回の避難訓練を行う中で、徐々に職員と子どものスキルがアップするようになり、様々な場面での訓練を心がけた。子どもたちは自ら考えて行動することができた。</li> <li>○毎回指導計画を作成し、事後の反省評価についても書面に残し全員で共有した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○訓練のための訓練にならないように、子どもの発達を踏まえながら、実践的な訓練が行えるようにする。</li> <li>○コロナ禍のため今年度はできなかったのが、警察などを招聘し専門的な知識を実践的に学ぶ機会をもつ。</li> </ul>

## 4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

- 自己評価方法は適切である。
- 保護者の園への評価が高く、強い信頼感が伺える。
- アンケート結果を数値化し昨年度との比較から分析、次年度への方向性を示すなど、公正に評価している。

## 5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
<p>評価Aは、適切である。</p> <p>○個人支援案を作成し、全職員が日々一人一人の成長や変化を見つけ、支援の方向性を定めながら実施できた。職員間のチームワークの良さが発揮できた。</p> <p>○園内研修会を定期的に行い、保育の内容について各職員の課題に合わせて研鑽を積むことができた。</p> <p>○基本的生活習慣については、保護者との連携を密にしながら丁寧に進められているので、今後も根気よく取り組まれない。</p> <p>○食育の促進については、畑の引越しという環境構成を子どもと共にされたことが食育の促進につながった。</p>
<p>評価Aは、適切である。</p> <p>○保護者アンケートでも大変高い評価を得ているように、自然や生き物との触れ合いから、命あるものや友だちを大切に思う心が大きく育った。</p> <p>○自然にかかわることで、小さな変化に気づいたり感動したりする心が育った。</p> <p>○様々な人とのかかわりを意図的に組み合わせることにより、違った立場での自分を経験し発見することができ自信をもつことができた。</p>
<p>評価Bより評価Aの方が適切ではないかと思う。</p> <p>○月1回ゆらんこからの講師を招聘し、個々の発達段階に応じた支援をスモールステップで行うことができた。また、保護者の悩みを専門機関につなげながら、家庭と園が共に歩むスタンスで支援を行うことができ、成果もあった。</p> <p>○今年度は「自己紹介カード」を年長児全員が作成し自由が丘東小学校にも訪問し、自分で小学校の先生に手渡しすることができ安心感が大きくなった取組は素晴らしい。</p>
<p>評価Aは、適切である。</p> <p>○ほぼ毎日のホームページ更新など、園の保育内容や行事の紹介を丁寧に情報発信され、保護者も園の様子がよくわかり安心されている。</p> <p>○降園時のスピーチでは、保育の内容についても良くわかるように伝え、園の様子をタイムリーに伝えることができた。</p> <p>○地域とのかかわりでは、わくわくステーション、公民館、小学校など、多方面にわたり、多くの経験ができ人にかかわる楽しさを味わえた。</p> <p>○自由が丘東小学校へ直接出かけて交流をもつなど、新しい取組も柔軟に取り入れ大きな成果となった。</p>
<p>評価Bは、適切である。</p> <p>○感染防止の観点から気を緩めることなく、対策をとっている。</p> <p>○様々な避難訓練を毎月実施し、子どもたちも職員も真剣に取り組み、事後の反省もしっかりと記録にも残しているのは、今後の貴重な防止策になる。</p> <p>○不審者対応については、環境整備の観点から今後も教育委員会に整備を依頼しながら万全の措置を取っていただきたい。</p>

